

香川県さぬき市鴨部東地区における地域環境保全活動の向上事例
Improvement case of the local environmental conservation activity
in Kabehigashi, Sanuki, Kagawa Pref

河本智宏 ○ 齊藤光男

KOUmoto Tomohiro, ○ SAITO Mitsuo

1. はじめに

新・生物多様性国家戦略では、「農村環境は、農家を含む地域住民の自発的な維持管理・保全等の活動に依存しており、生態系の保全等を進めるためにはこうした活動を環境保全の観点も入れて地域ぐるみで取り組むことを推進する。」ことが農地・農業における施策に示されている。このことを背景に国営香川用水二期地区の環境配慮計画では、生態系や景観に配慮した工事の推進（ハード対策）と併せて、受益地の環境保全活動の普及・促進（ソフト対策）を計画の柱に掲げ、受益地の環境保全活動の向上に取り組んでいる。本発表では、受益地の環境保全活動の普及・促進に資する取り組みとして、受益地で多面的機能支払（旧農地・水保全管理支払）による環境保全活動に取り組む鴨部東活動組織を対象に、生物の専門技術者による指導を3年間行い、地域環境保全活動の向上を試みたので報告する。

2. 現状分析及び課題の整理

受益地の環境保全活動の現状を把握するため、香川用水の受益地内において多面的機能支払（旧農地・水・環境保全向上対策事業）による環境保全活動に積極的に取り組んでいる15地区を抽出してヒアリングを行った。また、ヒアリング結果から環境保全活動の現状を分析して環境保全活動上の課題を図.1の通り整理した。（Fig.1）

環境保全活動の現状	環境保全活動上の課題
●生物に詳しい専門家がない。(87%)	→ 生物に詳しい専門家が必要
●生態系の現状が把握できていない。(73%)	→ 詳細な生態系調査が必要
●生態系の保全の方法が分からない。(73%)	→ 生態系の保全方法の指導が必要

Fig.1 環境保全活動の現状と課題

The present conditions and problem of environmental conservation activity

3. モデル地区の選定及び活動の支援方針

環境保全活動上の課題を踏まえ、ヒアリング地区の中から活動支援の同意が得られ、環境保全上の課題解決が期待できる地区として、香川県さぬき市の鴨部東活動組織をモデル地区に選定して環境保全活動の向上を図るための技術支援を行った。

鴨部東活動組織の環境保全活動では、一部のメンバーによって水路の生きもの調査やゲンジボタルの保全が行われていたが、生物に詳しい専門家がいなかったため、生態系の現状把握や、適正な環境保全活動には至っていなかった。また、地区内に点在する多くのため池の維持管理や多面的機能支払（旧農地・水保全管理支払）終了後の活動の継続が課題として整理された。このため、本組織への活動の支援方針としては、生物の専門家の指導により水路の生きもの調査や生態系に配慮した池干しを実践しながら、専門知識や保全技術を習得し、地域住民の手による適正な維持管理が行えることとした。

4. 地域環境保全活動の向上支援結果

(1)水路の生きもの調査(Fig. 2)

水路の生きもの調査は、水路の適正な維持管理に資する生態系の現状把握と地域住民の環境保全意欲の向上を目的として実施した。調査には、鴨部東活動組織のメンバーや地元小学校の児童、四国土地改良調査管理事務所、生物の専門技術者等多様な主体が参加した。調査では、生物の専門技術者が調査方法や生物の同定方法、水路の維持管理方法等について指導を行った。調査の結果、希少種のヤリタナゴ、シマドジョウ、メダカをはじめ多くの種の生息が確認され、3年間を通じた調査では、魚等の種類を判別できるメンバーも育ってきた。また、地元小学校の児童は、これらの学習成果を地域の集会で発表し、鴨部東活動組織は、地域のイベント（さぬき市鴨部のコスモス祭り）で、捕獲した生物や地域の環境に関するパネルの展示・解説を行って参加者の住民に環境保全をPRした。

(2)生態系に配慮した池干し(Fig. 3)

生態系に配慮した池干しは、ため池の適正な維持管理に資する生態系の現状把握と地域住民の環境保全意欲の向上を目的として実施した。池干しには、上記の水路の生きもの調査と同様に多様な主体が参加し、3年間で3箇所のため池で実施した。池干しでは、生物の専門技術者が生態系に配慮した池干しや捕獲した生物の処置方法等について指導を行った。池干しの結果、オオクチバスやブルーギル等の外来魚を3万匹以上駆除し、フナ類やタモロコ等の在来の魚を保護した。また、底樋等配管の構造が明らかになり、適正な維持管理が行えるようになった。さらに、これまでの成果を踏まえ、池干しの手順や方法、今後の計画をとりまとめた「生態系に配慮した池干しマニュアル」を作成した。(Fig. 4)

5. まとめ

鴨部東活動組織では、生物の専門技術者の3年間の指導による活動を通じて、生態系保全への取組み意欲が向上し、専門知識や保全技術の習得により、活動組織が自らの手で適正な環境保全活動が行えるようになった。また、その後も、自らの手で水路の生きもの調査や生態系に配慮した池干しが継続されており、昨年度に実施された池干しのモニタリングでは、外来魚が確認されなかったことや在来の稚魚が多く育っていることが報告された。このことは、これまで実施してきた生態系に配慮した池干しの効果が確認されたものであり、本手法が技術的にも有効であることが示唆されたといえる。

一方、多面的機能支払による地域資源の質的向上を図る共同活動が全国で行われているが、地域生態系の質的向上を図る共同活動については、本地区の事例でも示したように効果的な活動が行われていないケースが多く見受けられる。このため、本地区で実施したような既存の共同活動に生物の専門家を派遣し、技術的な指導を行うことで、生態系にも配慮した活動となり、地域資源の質的向上を図る共同活動の一層の向上が図られると考えられる。



Fig. 2
水路の生きもの調査
Survey of biotic
in the waterway



Fig. 3
生態系に配慮した
池干し
Pond airing in
consideration
for ecosystem



Fig. 4
生態系に配慮した池
干しマニュアル
Pond airing manual
in consideration
for ecosystem